

令和2年度第2回蒲郡市総合教育会議 会議録

開催日時	令和2年9月23日（水）午後3時から午後4時30分まで
開催場所	蒲郡市役所5階 庁議室
出席者	<p>蒲郡市長 鈴木 寿明 蒲郡市教育委員会 教育長 壁谷 幹朗 委 員 高田 稔 委 員 石渡 篤史 委 員 渡辺 充江 委 員 水藤 頼利</p> <p>【オブザーバー】 企画部 部長 飯島 伸幸 総務部 部長 平野 敦義 教育委員会事務長 嶋田 丈裕</p> <p>【説明者】 市民福祉部次長兼子育て支援課長 高橋 晃 教育委員会庶務課長 柴田 剛広 教育委員会学校教育課長 小澤 良充 教育委員会生涯学習課長 三浦 次七郎</p> <p>【事務局】 企画部次長兼企画政策課長 牧原 英治 企画部企画政策課係長 板倉 一博 企画部企画政策課主事 大森 麻子</p>
議事	<p>1 小中学校規模適正化方針の検討状況について（報告） 2 公民館グランドデザインの検討状況について（報告） 3 保育園グランドデザインの検討状況について（報告） 4 ICT教育の推進について（意見交換） 5 コミュニティ・スクールについて（意見交換） 6 その他</p>
会議資料	<p>1 第2回蒲郡市の未来を拓く教育推進会議資料から抜粋 (1) 次第 (2) 小中学校の教育環境についてのアンケート調査結果（案）について (3) 人口推計 (4) 児童生徒数推計 (5) 学校規模の標準等設定イメージ 2 公民館グランドデザイン検討委員会について 3 保育園のあり方（グランドデザイン）検討に関する資料 (1) 策定スケジュール (2) 蒲郡市子ども・子育て会議委員名簿 (3) 蒲郡市保育園グランドデザイン（案） 4 ICT教育の推進について 5 蒲郡市におけるコミュニティ・スクール推進計画（案）</p>

<p>会議内容</p>	<p>1 蒲郡市小中学校規模適正化方針の検討状況について 【説明者：庶務課長】 第2回蒲郡市の未来を拓く教育推進会議の概要について説明 【質疑応答】 ・学校規模の標準等設定イメージにおける例1と例2の違いは。 ⇒例1は、文科省が示した基準に沿ったもの。例2は、蒲郡市の実情に則して小規模校をⅠとⅡとに区別したもの。(教育委員会)</p> <p>2 公民館グランドデザインの検討状況について 【説明者：生涯学習課長】 公民館グランドデザインの検討状況について説明 【質疑応答】 ・現在、公民館で行われている講座などは、交流館か中央公民館どちらで行われるのか。 ⇒現在の公民館活動は交流館で継続する。加えて、今、各公民館ではできないようなことを中央公民館や地域の方々の支援を受けながら行い、交流館としての活動の幅を広げていく。(教育委員会) ・交流館での活動には、竹島小学校と府相公民館のように、小学校との交流も含まれるのか。 ⇒その通り。ただ、一小学校に必ず一公民館を置くということではなく、各コミュニティの単位を考え、公民館と学校が上手に連携していくような形にしていく。(教育委員会) 【委員の主な意見】 ・利用率の低迷や利用者が限定的であるという点を打破しないと解決にはならない。検討においても若い意見が必要ではないか。 ・eスポーツのように起爆剤的なコンテンツがあれば利用者の幅が広がっていくのではないか。ひとつモデルができれば、他の公民館にも波及できる。 ⇒若い人が現場にいないと、地域の若い人たちの意見もわからないといった話があった。しっかりと検討していきたい。(教育委員会)</p> <p>3 保育園グランドデザインの検討状況について 【説明者：子育て支援課長】 保育園グランドデザインの検討状況について説明 【委員の主な意見】 ・市長への手紙で低年齢児保育についてはよくご意見をいただく。グランドデザイン検討の中でサービスの不均衡についても合わせて検討をお願いします。(市長)</p> <p>4 ICT教育の推進について 【説明者：学校教育課長】 国のGIGAスクール構想及び蒲郡市におけるICT教育の推進について説明 【質疑応答】</p>
-------------	--

- ・授業支援ソフトを導入予定とあるが、既に具体的に選定しているか。
⇒1人1台端末のタブレットにAIドリルを初期導入することが決定している。(教育委員会)
- ・校務支援ソフトとの連携はされるのか。教員の負担は軽減されるか。
⇒採点作業や担任が見て判断していたところを、AIドリルでは自動で行われる。また、調べ学習においても、準備等にかかる時間はかなり削減されていくと考えられる。(教育委員会)
- ・導入予定のタブレットは購入か、リースか。現状では、今回導入するタブレットを何年ぐらい使う予定か。
⇒購入するものだが、最低でも9年、場合によっては6年で更新しなければならないと想定している。(教育委員会)
- ・ICT化に向けた環境整備は、現在どの程度まで進んでいるのか。
⇒学習用コンピュータ、指導者用コンピュータ、インターネット環境の整備、統合型校務支援システムについては、実施済み又は今年度中に完了する予定。大型提示装置は、未整備の分を令和3年度以降に整備を進めていきたい。ICT支援員については、令和3年・4年で4校に1人配置していく。

【委員の主な意見】

- ・他市の成功事例を基に進めていっては。また、先生方の教育するスキルについても、成功している市町村からお話をいただくとよい。
- ・ICT支援員がいないと充実したものになっていかない。4校に1人と言わず1校1人配置ができるようにしていただきたい。
⇒ご要望としてお聞きしておく。(市長)
- ・不登校児童への対応にぜひ活用していただきたい。
⇒不登校児童対策におけるコミュニケーションツールの一つとして考えており、検討している。(教育委員会)
- ・荷物の負担がなるべく軽減されるような配慮をお願いする。
⇒行き帰りの荷物の重たさについては、子供たちに負担のないように進めていく。(教育委員会)
- ・市においては6月の補正予算で1人1台のタブレット導入早急に進めていただいたことにお礼を申し上げる。(教育長)
- ・新規で1名、教育委員会の中にICT教育を中心に進めていく担当指導主事の配置をぜひお願いしたい。(教育長)
- ・支援員については民間にボランティアとも連携して、学校につなげていけるとよいと考えている。(教育長)
- ・ICT教育の推進は加速度的に進んできた。ハードソフト両面から、指導体制も含めて整えていくことが重要だと再認識した。(市長)

5 コミュニティ・スクールについて

【説明者：学校教育課長】

蒲郡市におけるコミュニティ・スクールの推進計画について説明

【質疑応答】

- ・地域連携担当教職員というのは、どのような立場の方か。
⇒学校経験・教育を経験した人を学校に配置するイメージだが、実際には公民館に位置付けた方がうまくいくケースも出てくると思う

	<p>ので、人や配置場所については今後研究していく。(教育委員会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コーディネータを配置する単位はどのようなか。 ⇒モデル地区の蒲郡中学校区と西浦中学校区においては、中学校を核として、小学校それぞれに支援員を置き、それを統括するコーディネータを置く形を考えている。(教育委員会) <p>【委員の主な意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校と地域が連携することによって学校側は恩恵を受けられる一方で、地域の方から行事のお手伝いなどを求められる可能性がある。かえって先生方の負担が増えることもあるのではないか。 ⇒地域コーディネータや支援員が中心になって課題を精選したり、地域の人材を発掘して学校側に知らせていただいたりすることで、仕事の的には助かる部分が非常に多いと考えている。(教育委員会) ・コミュニティ・スクールを成功させるには地域コーディネータと支援員がいないと絶対にできない。ぜひ支援員や統括コーディネータを配置していただきたい。 ・蒲郡市におけるコミュニティ・スクールの考え方は、学校現場から地域の方と力を合わせて学校運営を進めていきたいと湧き上がってきた思いである。学校の思いに市教委として応えていきたい。(教育長) ・人の繋がりが希薄な時代に、地域の皆さんから指導や支援を受けて絆が生まれるといった、ICTとは違った人の気持ちの通う教育が必要だ。コミュニティ・スクールは、地域を担う人材を育成する観点から言っても、学校にいる段階から町のことを考えていただくいい機会になるのではないか。(市長) <p>6 その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育委員の任を終える高田委員へ、3期9年にわたるご尽力に対する謝辞 (市長)
--	---